

辺野古土砂北九州・ミニニュース

辺野古埋め立て土砂搬出反対北九州連絡協議会 ≪2018年9月4日・No62≫
連絡先…森下 090-9495-3902 南川 090-2853-7116 八記 080-1730-8895



北九州市産業経済局・農林課を訪問

岩ずり=山ずり=北九州の単価 1 m³1550 円

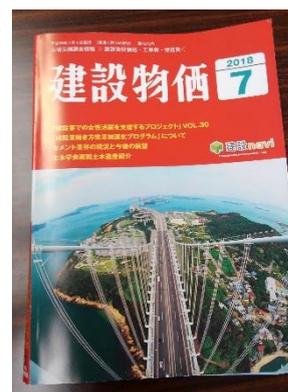
石材の地域ごとの単価は「建設物価」に載っている

9月3日(月)、辺野古土砂北九州の世話人4人(野田・藤堂・大谷・八記)は、北九州市の農林課を訪問しました。「採石業者は採石が終わったら、緑化をしなければならないが、その時に、大部分が土である「岩ズリ」が必要ではないのか」と思い、農林課にレクチャーをお願いしていたものです。

私達の質問に対して、職員の方はわかりやすく話をしてくれました。「市内でも大きな面積を持つ採石業者の所では、採石と並行して、採石が終わった部分の緑化を始めているが、市内の多くの採石場は広くないので、採石が終わってから緑化にかかるようだ。また緑化をする時には、土を使うので、山(やま)ズリは使わないと思う」とのことでした。

その他…私たちが「岩(がん)ズリ」と言っているものは、市では「山ズリ」と呼んでいる事※岩(いわ)ズリと呼ぶ人たちもいる。市もいろんな工事で山ズリを使う。石材や土の単価は地域ごとに違い、その単価は「一般財団法人 建設物価調査会」が毎月発行している「建設物価」という本に出ている。ただし山ズリは安いので掲載されていないが、調査会に聞けば教えてくれる。その単価を北九州市でも使用しており、山ズリの単価は、1 m³ 1550 円(現地着価格)。また半年に一度この単価の見直しをしている…などがわかりました。また、土の場合 1 m³=1.8 t だという事もわかりました。

※土砂全協が7月に行った防衛省交渉で、沖縄産の岩ズリの単価(現地渡し)は 1 m³1 万 1290 円でした。仮に北九州から岩ズリが搬出される場合、上記本文の単価に沖縄までの送料がプラスされるので、いったい、いくらになるのでしょうか。



上・分かりやすい説明だったからこそ、次々に質問が続いた農林課訪問。本当にありがとうございました。左・全国の石材等の単価が出ている「建設物価」

今月の小倉駅前街頭宣伝は

9月22日(土)

16時~17時です

辺野古土砂北九州では、毎月小倉駅前で街頭宣伝を行っています。ご都合の付く方は、是非ご参加ください。



8月の街頭宣伝の様子

「県民の諦めない心信じる」

妻・樹子さんが語る翁長前知事の最後の思い

8月8日に亡くなった前知事の翁長雄志さんの妻の樹子（みきこ）さん（62）は、9月1日付けの沖縄タイムスのインタビューで、名護市辺野古の新基地建設問題に対する前知事の思いなどを明かしました。



翁長樹子さん
（今年1月名護市で）

「撤回」を仏前に報告

撤回したと聞いて「あなたは自分の責任でやりたかったと言うでしょうけど、皆さんが遺志を継いで頑張ろうと立ち上がってくれたのよ」と仏前に報告しました。

翁長雄志は命懸けでした。若い頃は何を考えているのか、理解できないこともありましたが、亡くなって思うんです。政治家として追い求めてきたことは、ずっとつながっている。沖縄の人たちの心一つにしたかったんだ、と。辺野古問題で悩むことが多かったでしょ。本人は亡くなる直前に言いました。「人がどう言うか、どう判断するか、分からない。でも知ってほしい。僕は精いっぱいやったんだ。これ以上はできない。それでも足りないだろうか。僕の力はそこまでだったんだろうか」と。私が「ウチナーンチュだったらきつと分かるはずよ」と応えたら、翁長は静かに笑

っていました。7月27日に撤回を表明し、30日に入院しました。肉体的にはとてもきつかったと思うんです。ぎりぎりの状態で撤回の準備を進めていました。最後の記者会見、廊下の窓際に腰を掛けて休んだ理由を、外反母趾と答えただけ、あれは全然違う。前日、県庁で最後の打ち合わせをして、公舎に「ただいま」と帰ってきました。玄関のいすで3分、廊下で3分リビングで3分、寝室までの廊下でまた3分休んで、5分を歩くのに20分かかる状況だったの。

「記者会見で自分の思いを伝えることができるだろうか」と私に聞きました。私は「できるに決まっているじゃないの。何のために頑張ってきたの。あなたがやらないで誰がやるの」と背中を押しました。翌日、送り出して、記者会見で30分話し続けることができたと聞いて、私は「神様ありがとうございます」と何度も繰り返しました。

私が背中を押した理由

背中を押したのには理由があるんです。撤回が現実味を帯びた頃、国から「一般職員にも損害賠償を求める」という情報が伝わってきたんです。翁長は「自分は政治家だから丸裸にされても、撤回をやるでも一般職員を矢面に立たせるわけにはいかない」と、強く言ったんです。だから、あ

なたがやらないで誰がやるのって言いました。

最後に入院した時、一回だけ「苦しい」と訴えたことがあります。病室で車いすに乗ろうとしたときにバランスを崩して、私と二人で転び、私に苦勞させていると思ったんだらうね。もたれかかるように「苦しい」と言いました。

死期を覚悟していたのか、恐怖があつたのか。「この先、子どもたちに当たるかもしれない。その時は伝えてほしい。今のお父さんは本当のお父さんじゃないよ。自分で自分をコントロールできなくなっているんだよ」と言つたんです。でも、そんな必要はなかった。

最後の最後まで子どもたちに当たるところか、周りに気を使うお父さんでした。

県民が諦めれば 未来永劫 沖縄に基地

「県民が諦めなければ辺野古の基地は造られない」と翁長は信じています。県民が「しようがない」となれば、未来永劫沖縄に基地をおかれたままになる。それでいいのでしょうか。翁長は命を懸けて、そこを問い続けました。

ウチナーンチュが団結したとき、私たちが考えている以上の力強さがあると次男が県民大会で言ったでしょ。本当にその通りだと思うんです。

翁長は知事になってからずっと難しい顔をしてたでしょ。だから最後は見せてほしいと思つた。翁長の本当の笑顔。末っ子の甘えん坊の笑顔。明るくよく笑う人だったんです。この4年間はほとんどみることがなかった。

非常に読みにくいと思いますが、ご容赦を。